

水稻害虫防除はこれ!!

使いやすくて、よく効く!!

ニカメイチュウ、
イネミズゾウムシ、
イネドロオイムシ、
ツマグロヨコバイ、
コブノメイガなどを
的確に防除!!

おまかせ
ください!!



パダン®粒剤4

パダンは住友化学(株)の登録商標



イネドロオイムシ



イネミズゾウムシ



フタオビコヤガ



ツマグロヨコバイ



ニカメイチュウ



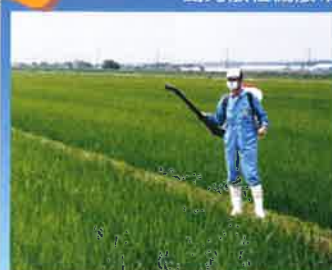
コブノメイガ

水面施用

手まき散布



動力散粒機散布



移植当日 育苗箱施用



播種前 床土混和



ほうれんそう とうもろこし はとむぎ だいこん まこもたけ ひえ ふき 等にも使えます!!

パダン® 粒剤4

●有効成分：カルタップ塩酸塩……4.0%

●性 状：類白色細粒

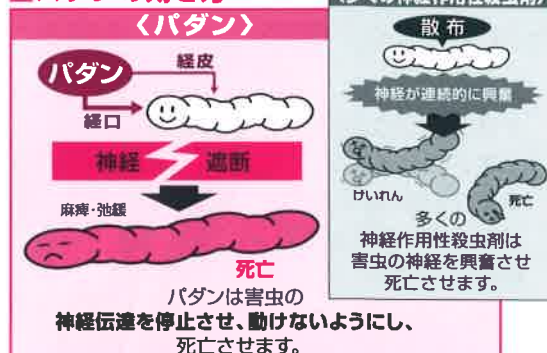
医薬用外劇物

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 空袋・空容器は畑等に放置せず適切に処理してください。

特 長

- 1 水面施用では**
 - **散布適期の幅が広い**
コブノメイガやイネツトムシなど食害性害虫に対して散布適期幅が広く、安定した効果があります。
 - **天敵に影響が少ない**
ツマグロヨコバイやウンカ類の天敵であるクモや寄生蜂に影響の少ない薬剤です。
- 2 育苗箱施用では**
 - **イネミズゾウムシの幼虫防除に優れた効果**
 - **イネドロオイムシに長い残効性**
 - **ツマグロヨコバイに優れた効果**
 - **省力的防除が可能**
- 3 は種前床土混和では**
 - **本田初期害虫を省力的に防除**
は種前に床土に混和するだけで初期害虫の防除ができます。
は種1ヵ月前から当日まで使え、また肥料などとの同時混和もできます。

パダンの効き方



だから

多くの殺虫剤で効きにくくなった害虫にも効果があります。

使用上の注意(抜粋)



水 稲

- 田水中で粒形が崩壊しなくても成分は速やかに溶出するので薬剤に影響はありません。
- 本剤を本田に使用する場合は、3cm前後の湛水とし、田面に均一に散布し散布後4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は湛水やけ流しはしないでください。
- 湛水のはげしい水田では使用しないでください。
- スクミリンゴガイに対しては、食害防止効果を目的として使用してください。本剤には殺虫効果がないので、水田以外の生息地には決して使用しないでください。
- スクミリンゴガイに対しては本剤の育苗箱処理は効果の持続が十分でないことがあるので、本剤に有効な本田処理剤や耕種防除法との組み合わせで使用してください。
- 育苗箱に使用する場合は次の注意を守ってください。
- 使用量、使用時期、使用方法等を読み取りに注意し所定の範囲内のなるべく低薬量で使用してください。特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 【移植当日に使用する場合】
- 育苗箱中の苗の上から所定量を均一に散粒してください。なお、薬に付着した本剤は軽く払い落とし、そのまま移植機にかけて移植してください。
- 施用は必ず移植当日に行ってください。薬剤施用から移植までの時間が長いと薬害を生じやすくなるので、なるべく移植直前(2～3時間以内)に施用してください。
- 苗葉がめれていると薬害を生じ易いので、散布直前の湛水はしないでください。
- 軟弱徒長苗では薬害のおそれがあるので、健苗に使用してください。
- 【床土に混和する場合】
- 床土に人工培土を使用する場合は予め薬害に対して安全性の確認されている培土を使用してください。
- 播種前に育苗用床土に所定量の薬剤を均一に混和してください。覆土への混和は行わないでください。
- 土壌の種類によっては育苗期間中に葉枯れなどの薬害を生じることがあるので床土が下記のような土壌の場合には使用を避けてください。
- 火山灰性の畑土、山土(りん酸吸収係数2000以上のもの)
- 砂土など有機物の含量の少ない土壌。尚、火山灰土、砂土など薬害を生じやすい土壌の場合でもモンモリロナイト(粘土の一種)に富む育苗資材を床土に5%程度混和することにより薬害を軽減することができます。
- 軟弱徒長苗では薬害のおそれがあるので、健苗の育成に努めてください。
- 育苗箱に本剤を使用した苗の移植する場合は次の注意を守ってください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じ易いので代かきではいけないに行い、移植後田面が露出したりすることのないように注意してください。移植後は直ちに水入れ、水深2～3cm程度を保ち湛水はしてください。
- 深播の場合には薬害を生じ易いので注意してください。
- 本田が砂質土壌の場合や、漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用を避けてください。
- 移植後極端な低温や高温(30℃以上)が続くと予測される場合、あるいは冷水がかなり低温障害を起こりやすい場所では使用を避けてください。
- ニカメイチュウに対しては早期栽培など、特に薬剤施用時期が早い場合や、ニカメイチュウ第一世代の発生が遅れた場合には十分な効果が期待できません。
- イネゾウムシに対しては主として本田でのふ化幼虫の密度を下げ次世代の成虫の加害を低下させることを目的として使用するものであり、越冬成虫に対する効果は期待できません。

そ の 他

- いかに使用する際の注意事項
- つみき菜、間引き菜に使用しないでください。
- とうもろこしに使用する際の注意事項
- アワノメイガの低化盛期に穂穂及び穂穂にもかかるよう株の上から均一に散布してください。
- その他の注意事項
- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 本剤を使用した場合には、チオシクロム又はベニシクロムを含む剤は使用しないでください。
- 苗に対して長期毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、葉に付着するおそれのある場所では使用を避けてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。また、本剤を使用した苗は養魚田に影響を及ぼすので、養魚田等周辺での使用は避けてください。
- 水産動植物(ドジョウ)に影響を及ぼすので、河川、養魚池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養魚池等周辺での使用は避けてください。
- 散布後または移植後は、水管理に注意してください。

適用害虫と使用方法

2020年1月現在の登録内容

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
稲(箱育苗)	イネドロオイムシ イネハモグリバエ ツマグロヨコバイ コブノメイガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g	は種前 又は 移植当日	本剤：1回 カルタップ：6回以内(#1)	は種前に育苗箱床土に 均一に混和するか、 又は移植当日に 育苗箱中の苗の上から 均一に散粒する
	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ (食害防止)	育苗箱1箱当り 60～100g			
	ニカメイチュウ イネゾウムシ幼虫	育苗箱1箱当り 80～100g			
稲	ニカメイチュウ イネツトムシ コブノメイガ フタオビコヤガ アザミウマ類	3～4kg/10a	収穫30日前 まで	本剤：6回以内 カルタップ：6回以内(#1)	手、又は散粒機で 田面に均一に散粒する
	サンカメイチュウ 第3世代 スクミリンゴガイ (食害防止)	4kg/10a			
ひえ	アワノメイガ		収穫21日前 まで	2回以内	散 布
ふき	フキノズイバエ	6kg/10a	収穫7日前 まで		
ふき (ふきのとう)			収穫21日前 まで	本剤：2回以内 カルタップ：4回以内(#2)	株の上から 均一に散粒する
とうもろこし	アワノメイガ		収穫7日前 まで		
はとむぎ	アワノメイガ イネヨトウ	4kg/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散 布
ほうれんそう	ミナミキイロ アザミウマ	6kg/10a	は種時及び 発芽前時		
だいこん	キスジノミハムシ	4kg/10a	は種時	3回以内	覆土後 土壌表面散布
			生育期但し、 収穫7日前 まで		株元散布
まこもたけ	ニカメイチュウ		収穫75日前 まで		散 布

#1：種もみ浸漬は1回以内、床土への混和、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内 #2：水溶剤の処理は2回以内、粒剤の処理は2回以内
*：収穫物への残留回避のため本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

2001SC/ZS30



サンケイ化学株式会社

本 社 鹿児島市南栄2丁目9 ☎099-268-7588
宮崎事務所 宮崎市神宮東3丁目6-19 ☎0985-25-7051